

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成28年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境の中で、ゆっくりとした時の流れを大切に過ごして頂く支援を行っている。施設前の敷地も広く、毎日戸外の散歩を楽しむ事が出来る。個人の意思を大切に、寄り添いながらひとり一人の好きなことを活かせるような支援に努めている。年2回の家族会を開催し、御家族同士、職員とのコミュニケーションを大切にしている。地元の方との交流の場を増やし、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関出入口に常時掲示してあり毎日職員が目にし再確認出来る様になっている。また職務遂行にあたりその行動が掲げる理念に沿ったものであったかを確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治区の方々の配慮もあり毎年祭りの際はホームを山車の通過ルートにして頂き、太鼓による演舞も披露して頂いている。また地元の消防団、住民の方々と合同救命講習も行い命を守る現場としての発信も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元ボランティア様の慰問、小学生との交流、中学生の職場体験通しグループホームの日常を見て頂いている。また家族会の場を利用して地元社会福祉協議会様とも連携をし「認知症講座」なるものを開き認知症理解への発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現状を報告し出席頂いた方々の様々な視点より意見を出し合い地域との繋がり方を考える場としている。また入居者様にも御参加いただき直接の声として意見を述べて頂き今後の行動、目標指針としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員、地域包括センター、社会福祉協会との情報交換を密にし地域全体との連携強化に努めている。またサービス向上連絡会にも積極的に参加し外部との協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須研修項目として職員全員が毎年研修を受けており身体拘束が及ぼす負の影響への理解度は高い。入居者様一人一人を個として捉え安易な対応をしてしまわない様に施設全体として意識出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても必須研修項目として職員全員が毎年研修を受けている。すべての情報を職員間、御家族とも共有し開放された環境作りを心掛け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については研修も行われておらず一部職員の理解にとどまっている。御家族への提案の必要性も考慮し今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に管理者が十分な説明を行い、同意を得たうえで契約を締結している。変更や改定がある場合も事前に通知、説明を行い承諾を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援の方向性を決定する際は御本人様、御家族様と話し合いを行い率直な想いを述べて頂き、サービスに反映させられるように努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に一度開催し現場の率直な意見が述べられるようになってきている。また本部の相談窓口も設けられており誰でも気軽に電話相談が行える環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に応じた手当の支給等、各自の努力や向上心が給与に反映される仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1度はテーマに基づいた研修が実施されている。市や病院主催の研修会にも出席しその内容が職員全員に周知されるように受講者による発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流、研修等は実施されているが社外の同業者とは交流を持っていないのが実状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃の何気ない会話やふれあいを通して個々の性格、特徴、生活歴、近況等を総合的に理解し、声にならない本人の意思、希望にも気配りが出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃よりありのままの情報提供を行い御家族様との信頼関係の構築に努めている。要望や、意向、様々な想いも考慮しサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前より情報収集、相談を行い近況での必要なサービス把握に努めている。またグループ運営の強みを活かす必要に応じては他のサービス利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の入れ替わりも少なく日頃より慣れ親しんだ顔ぶれで安心生活して頂いている。気さくに談笑もでき疑似家族としての一員を各々に担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回は家族会を行い多数の出席を頂いている。実際の姿、様子を踏まえた上で施設に意見を頂き今後の支援について本音で相談出来るような関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出等に制約は無く地域の方々も気軽に来館して頂いている。地区の祭り見学、地元ボランティア様の慰問の受け入れ等地域に密着した施設運営に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や人間関係を把握し楽しい会話やレクリエーションになるよう職員が仲立ちを行っている。笑顔になれる環境の提供を目指し孤立の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は御家族との決まった交流は無いが、相談に来られたり連絡があった際は出来る限りの協力はさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して個別に意向を把握出来るように努めている。短絡的に理解した気にならず性格、特徴、生活歴、近況等を十分に考慮しカンファレンス等で意見交換も行い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より情報収集を行いフェイスシート、アセスメントシートを作成し本人の背景の把握に努めている。何気ない会話で感じられる想いや、内容も職員間で共有し距離を近づけられるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、関わりの中で一人一人のADL、残存能力、性格、想いを見極められるように努めている。家事や作業を共有し能力の維持、向上を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには御本人にも出席して頂き意向がプランに反映されるように努めている。新たな事案について検討する際は御家族とも相談し個々の想いが反映されたプラン作りを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を毎日記入しその日の様子や健康状態を職員全員が目を通している。変化を認めた場合には詳細記録を記入しニーズを見極め介護計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	立地とグループホームの特色を生かし皆で朴葉寿司、五平餅、干し柿等を地域の方々の協力も頂きながら作っている。買い物やドライブ等個別の要望やニーズに対しても出来る限りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな環境の中を散歩したり、ドライブ、外食をして四季を感じて頂けるように心掛けている。地域の方々の協力もあり旬の食材を楽しんだり、小学生やボランティア様との交流も盛んである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院と地元医師との連携が確立されている。定期的な往診もあり気軽に何でも相談出来る関係になっている。時間外でも緊急時は駆け付けて頂く体制になっており安心して生活が送れる環境になっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が勤務しており近況を報告、相談し適切なアドバイスが受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も病院や御家族との連絡を密にし状況の把握と今後の新たなニーズの把握に努めている。退院時は病院相談員、担当看護師とも意見交換を行い安心した生活を送れるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年研修課題に組み込まれ、重度化や終末期のあり方に対する職員の理解は高い。御本人、御家族の想い、医師の見解、職員の意見をもとに話し合いを行い方針を決定するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防署の協力もあり急変時の初期対応、AEDの使用方法等の訓練、指導を受け職員は技術と知識を身に付けている。また疑問を「解決し的確な行動がとれるように心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、土砂崩れ等様々なケースを想定した避難訓練、ハザードマップ等の情報確認を行っている。また非常食の備蓄や防寒器具の準備もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「本人の立場に立ったケアを心掛ける」という理念を常に念頭に置き、入居者様を個と認識し各々の尊厳が失われてしまう事の無い様に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様を個として様子観察を行い、各々の特徴や性格を把握し信頼し合える関係作りを重視している。言葉にならない発信にも目を向け思いを汲み取れる様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のスタイルとペースで一日を過ごして頂いている。テレビ鑑賞、昼寝、外気浴、散歩等本人の希望に応じた時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容室より定期的な美容師の来館をお願いしている。職員と共にマニキュア、ペディキュアを施したところ女性の入居者様に大変好評を頂いた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者様の状態や好みを鑑みながらメニューを考え作成している。また朴葉寿司や五平餅等、地元の伝統食をみんなで一緒に作り食事に楽しさを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好や嚥下の状態を考慮したメニュー、食事形態を意識し皆が食事を楽しみに出来る様に努めている。食事、おやつ以外の時間にも希望や、状態に応じて水分摂取を行って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を認識し毎食後利用者様に応じたケアを実践している。定期的な入れ歯の洗浄消毒も行い清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日定期的に声を掛け、誘導を行い排泄のリズムを作っていたに心掛けています。失敗にもさりげない前向きな声掛けに努め自尊心、羞恥心に配慮した対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作成、記録し各々の特徴と近況を常に把握しながら対応している。毎日のヨーグルト提供や水分摂取の促し等の便秘予防を常に意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別な行事がない限りは2日に一度は入浴出来る体制を組んでいる。事前に意思確認、バイタルチェックを行い安全かつ快適に入浴して頂けるように心掛けています。体調や状況によっては清拭にて清潔を保持して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルや体調に配慮し自身のペース配分で生活して頂いている。日中の活動はもとより不安の解消や、精神面での平穏が安眠に繋がる事を職員は理解している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に既往歴、現在の状態を確認し服薬の目的、用法、用量を正確に把握している。またセッティングから服薬までに何重ものチェック体制を取り誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物量みなど今までごく普通に行ってこられた作業をホームでも日常のありふれた1コマとして行っている。自然に役割を持ち張りのある生活を送って頂けるように心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見、秋の紅葉ドライブは毎年恒例になっており楽しみにして見える入居者様も多い。全員が参加できるように車椅子や歩行器等の運搬専用の車両も手配し外出した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は施設にて管理しているが自身で管理されている方も見える。希望により物を購入したり一緒に買い物に出掛けたりもしている。入出金の台帳を個別に作成し月に1度は御家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて職員が間に入り電話を掛けたり受けたりしている。手紙や年賀状、荷物等届けばすぐ御本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、トイレ共に毎日消毒、清掃し清潔な空間の提供を心掛けている。寒冷地ゆえに冬場の室温には特に気を配りこまめに温度調整を行っている。また掘りごたつを設置し家庭的な雰囲気の中でゆっくり落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や特徴を理解し座席の位置にも反映している。ホール内は自由に移動でき居室への出入りも自由である。自身の意思で過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新品ではなく自身の愛着があり使い慣れた物を持参いただくように事前をお願いしている。写真や仏壇等の個々に感じる大切な物も居室に置いていただき安心かつ快適に生活を送って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3か所あるトイレも毎回同じ場所のトイレに誘導し自身の意思でも迷うことなく行動出来る様に心掛けている。居室内の物の配置もADLや自身の好みに留意し話し合いを行い御本人納得の上で安全と過ごしやすさの両立に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ有限会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成28年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境の中で、ゆっくりとした時の流れを大切に過ごして頂く支援を行っている。施設前の敷地も広く、毎日戸外の散歩を楽しむ事が出来る。個人の意思を大切に、寄り添いながらひとり一人の好きなことを活かせるような支援に努めている。年2回の家族会を開催し、御家族同士、職員とのコミュニケーションを大切にしている。地元の方との交流の場を増やし、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常にホーム玄関に掲示し職員が常に意識出来る様にしている。週に1回より良い施設にする為の抱負を職員が述べ今後の業務遂行の指針としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の計らいもありホーム敷地内にバス停が設置されている。予約をすれば希望の時間にバスが配車され外出も容易になった。お祭り当日は毎年山車がホームに立ち寄り太鼓も披露して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元小学生との交流も恒例となり認知症理解を深める機会となっている。地元の親子を招き消防署による緊急対応講習を職員と共に受けて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター職員、地元の様々な立場の住民の方に御参加して頂いている。利用者様が参加出来るイベント情報等サービスの向上に活かす事が出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとは密に連絡を取り合い地域の情報を把握している。サービス利用が必要な方の入居相談も随時行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる研修の必須受講項目となり職員同士の意識を高めている。職員同士が話し合いをしながら職務にあたり身体拘束の防止に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止同様に虐待防止も研修で取り上げている。知識を十分に持ち各自意識を高め職務遂行に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について社内で学ぶ機会を持っていない。理解は一部職員に限定されている現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より管理者が御家族に説明を行っている。御家族の不安や疑問を解消し安心して利用できる施設作りを目指している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望、苦情等すべての情報を職員が共有するようにしている。カンファレンス等でも取り上げ今後の運営に反映出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行っている。地域の責任者も参加し自由に意見が述べられる場が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得や目標達成時の手当の支給等本人のやる気や努力が評価される仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度は施設内での研修が行われている。不定期ではあるがグループ内の研修もあり、病院等での勉強会にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内ではあるが交流、研修をおこなっている。各々の活動や抱える問題点を出し話し合いサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にカンファレンスに出席して頂き本人の率直な要望、不安を引き出しニーズに沿ったプラン作成に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より情報を収集し御家族の気持ちに寄り添えるよう心掛けている。面会等の際、御家族の要望を聞き今のホームでの生活の様子も伝え今後についても話し合いを持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に様子観察を行い小さな変化にも目配りが出来る様に努めている。状態を見極めながら常にニーズに沿ったサービス内容に変更している。その際は必ず本人、御家族の意向を聞き取り支援に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように食事やおやつは同じテーブルで摂っている。レクリエーションと一緒に笑い楽しむ時間を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊等御家族の希望で自由に交流時間を持って頂いている。年2回の家族会では利用者様の御家族同士、職員との交流も持てる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の喫茶店や飲食店で外食を楽しむ事もある。地元ボランティアの方々とも積極的に交流し演目だけでなく懐かしい地元の昔の話等も楽しみの1つとなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションをただ楽しむだけではなく、貼り絵等全員で1つの目的に向かい共に協力、行動出来る様に導いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も再び入居の申し込みの希望があれば受け入れている。相談事があれば受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを日常会話を通して理解し意向や希望に変化があればケアプランに取り込み支援に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴や既往歴、暮らしてみえる近況等情報収集に努めている。入居後も御本人、御家族との聞き取りを行い個としての把握を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より様子観察を行い職員同士で意見を出し合い個々の状態や特徴の把握に努めている。気になる事象に於いてはチェック表を作成し情報を分析している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向を聞き取りケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い変化を認めた場合はその都度プランを見直し実践、評価している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録はその方の言動や様子に着目して記入し全職員が必ず目を通して見る。ケアの実践状況によりプランの内容や方向性を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じ柔軟な支援を心掛けている。グループ運営の利点を活かす必要サービスを選択してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域バスを利用し地元の喫茶店や飲食店で外食を楽しんだりしている。地元ボランティアの方々との交流も盛んに行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の2つの医院と連携し状態に合わせ定期的な往診を行って頂いている。気軽に相談も出来適切な治療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が勤務している。日々の様子を相談したり、状態を確認のうえアドバイスや指導をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員や担当看護師とも連絡を取り入院後の経過や退院時の状態を確認している。サービスの見直しを含め退院後生活を安心して送れる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、御家族の想いをもとに重度化や終末期のあり方を話し合っている。主治医や職員の意見も鑑みながら今後の指針をチームとして決定できるように準備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習を毎年開催して頂き職員は緊急時の対応を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害を想定した訓練を行っている。会議の議案として災害時の対応や情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何事も強制せず自己決定で物事を進めていけるように心掛けている。利用者様を個別化し拘子定規な対応にならぬように気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を意識的に傾聴するように心掛けている。また日頃よりの関係を重視し意向を伝えやすい環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に出来る限り自由に思いが実現できるように努力、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節によって衣替えを行っている。御本人と相談しその日の服装を選んで頂いたり定期的に美容師に来館をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話より好物や食にまつわる思い出話を聞きメニューや行事食に反映している。個々の状態に応じた食事形態を意識し食事が楽しみにして頂けるように心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日記録を取り常に個々の状態を職員全員が把握している。摂取量、食事形態等支援が必要な場合はその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じ毎食後口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。ケアの重要性を職員全員が周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日時間を決め声掛け、誘導を行い排泄のリズムを作って頂けるように意識している。またトイレへの訴えが気軽に出来、我慢する事の無い環境作りを心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日各自のチェック表を記入し状態を把握しながら対応している。腹部のマッサージやヨーグルトの摂取等便秘に対する職員の意識は高い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に2日に1度は機会が持てる様にしている。本人の希望を聞き入浴するかどうかも決定して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースやスタイルに応じて日中を過ごして頂いている。日中の活動や精神的な安定が安眠に繋がる事を職員は理解している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の時間、量、回数を十分に把握したうえで管理させて頂いている。薬の変更があった時は服用後の様子や変化等に目を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで家で行ってきた仕事、作業はやる気に応じて手伝って頂き役割を持ち張りのある生活が送って頂けるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方が多く、外出の機会はほとんどないが、季節ごとのドライブや、外食をする企画を立て、利用者様の希望を叶えるようにしている。また、ホーム前の敷地は広いいため、戸外に散歩に出掛けられる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設にて行っている。ご本人の希望があれば職員が購入してきている。出納帳を個々に作成し、ご家族の面会時に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時には、ご本人に繋げている。手紙や年賀状、荷物等は届けばご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、ホール、トイレ玄関等を消毒、掃除を行い常に清潔にしている。季節により、習字・貼り絵・塗り絵などで季節感を感じられるような空間づくりを行っている。又、昔ならではの炬燵があり、真冬などに暖をとることで、家庭的な雰囲気を味わうことが出来る様になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファではその日の気分で思い思いに語り合い、家族の様な雰囲気が伺える。居室への出入りも自由で、ご自分の意思で過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明も行き、ご自宅で使われていた物を持ち込んで頂き、家の暮らしに近づく工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の物の配置は、個々の動線を考え安全に過ごせるように支援している。日中車椅子の方で、夜間帯のトイレはポータブルを使用して頂き、自身の意思で行動出来る様に支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200172		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム 稲武の家		
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310番地		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2376200172-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	平成28年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然あふれる環境の中で、ゆっくりとした時の流れを大切に過ごして頂く支援を行っている。施設前の敷地も広く、毎日戸外の散歩を楽しむ事が出来る。個人の意思を大切に、寄り添いながらひとり一人の好きなことを活かせるような支援に努めている。年2回の家族会を開催し、御家族同士、職員とのコミュニケーションを大切にしている。地元の方との交流の場を増やし、地域に根付いた施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム玄関に常に掲示しており、職員が意識出来る様にしてある。また常に支援等が理念に沿ったものであるか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のお祭りの日、山車がホームに立ち寄り、太鼓を披露して下さったり、小学生との交流会も実施されており、地域との繋がりもより強くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア体験隊、中学生の職場体験等の受け入れを行い、グループホームの日常をみて頂いており、認知症への理解等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員・ご家族代表・地元住民代表の方々に現状報告をさせて頂き、それぞれの意見を聞かせて頂いたり、情報交換の場としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員、地域包括支援センター、社会福祉協議会との情報交換を密にし地域全体との連携強化に努めている。サービス連絡協議会にも参加し、外部との協力関係に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須研修項目として職員全員が毎年研修を受けており、身体拘束が及ぼす影響をよく理解している。玄関の施錠も日中はしないよう心掛け、利用者様の行動を見守るよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部主催の研修があり、職員全員が毎年受けている。すべての情報を、職員間、御家族とも共有し、解放された環境づくりを心掛け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度については、全体で学ぶ機会は設けておらず、一部職員の理解にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者が十分な説明を行っており、同意を得たうえで契約を締結している。変更や改定がある場合も、事前に通知、説明を行い、承諾を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様への手紙や家族会を重ね信頼関係を深め、要望や意見が出やすい関係づくりをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダーミーティングの際に職員の意見、提案を聞く機会を設けている。地域責任者も会議に参加しており、本部に伝えることができる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推進、それに伴う手当など、各自が向上心を持って働ける環境となっており、給料にも反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回テーマに基づいた研修が実施されている。地域の病院主催の講習会に主席し、職員会議の場で、周知されるよう発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の交流、研修等は行っているが、社外との交流はもてていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の生活状況を知るための訪問を実施して、本人の希望や困っていることなど、会話や様子から読み取り、安心できるような関係を築けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望をしっかり聞き、サービスの実施についても分かりやすい説明を心がけている。また、些細なことでも、相談していただけるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いを把握し、支援の必要性について検討し提供している。ニーズの変化に対応したケアも心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を活かし、利用者様が生きがいを持ち役に立っていると感じて頂ける支援を心掛けている。又、馴染みの職員が疑似家族として共に暮らしている雰囲気作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時には利用者様の現状をお伝えしたり、ご家族へ年に数回お手紙での報告をさせて頂いている。又、年2回の家族会を実施し、共に利用者様を支えていく関係を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や知人等、いつでも面会に来て頂けるようにしている。又、地元のボランティアさんの慰問を受け入れる等で、地域に密着した施設運営に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様、個々の性格を把握し、楽しい関係が築ける様に職員は仲介に入ったりして、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は連絡を取り合うことはないが、移動先の施設、病院に赴く事はある。また、相談に来られた時は、出来る限りの協力はさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活スタイルを把握し、希望があれば沿うように努力している。困難な場合はご家族の意向も聞き、なるべくご本人本位のケアを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族より生活の状況を聞き、背景の把握に努めている。本人との関わりから、想い等も汲み取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察により、個々の状況について変化のある時は記事に残し、改善できるように努めている。また、家事や作業を共有し能力維持、向上を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を尊重し、カンファレンスでプランに反映出来る様に努めている。定期的なモニタリングで検討があるときは、ご家族とも相談し、個々の思いが反映されるようにプランを考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録に日々の様子やバイタル、服薬等を記入し、職員全員が把握している。変化があった時は、カンファレンス等で話し合い、ケアプラン変更等に反映出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族への希望が聞き入れられず、買い物等が出来ない利用者様へは、職員の付き添いで買い物に出掛けている。又、季節ごとのドライブ等も要望に応えられるように、出来る限り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな立地を活かしその中を散歩したり季節を感じる風景を楽しんで頂いている。地元ボランティアの方々や小中学生との交流も定期的に行い地域に根付いた施設運営を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院と地元医師の連携が確立されている。状態によっては往診もして頂き気軽に相談が出来、症状によっては紹介状を書いて頂き適切な治療が受けられる体制となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が勤務しており近況を報告し助言や処置を行っている。医療的な視点より体調管理を行い安心して生活が送れる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も病院相談員や御家族との連絡を密にし状態の把握に努めている。退院時も情報収集を行い帰館後の生活が安心して送れる様に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の御本人、御家族の意向を確認し指針を決定している。常に状態の変化に気を配り主治医と相談、連携を図りながら思いに沿った支援が出来る様に心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元消防団の協力もあり毎年緊急時の救命講習を開催している。地区の方々も参加され合同で有事の対応、対処を学んだ。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	火災、地震、水害等様々なケースを想定した訓練を行っている。また時間帯別に訓練を行いその精度の向上に努めている。入居者様も参加した訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助する方の立場に立ち言葉掛けの内容や伝え方に十分気を払うようにしている。言葉にならない思いを常日頃より感じ取り個人の尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の気持ちに耳を傾け思いに寄り添った声掛け、分かりやすい声掛けにて自己決定を促している。日頃よりの関係を重視し希望が表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のスタイルやペースを大切にしている。集団生活ゆえの見えない制約もありバランスをとる困難さが今後の課題ともなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元美容師に定期的に来館いただき個々に注文を付けながら髪を切って頂いている。季節毎に衣替えを行い季節感ある装いで生活して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、風土、好み等を考慮しメニューを職員が作成している。食事を楽しんだ後は無理にではなく日常のごく普通の1コマとしてテーブル拭きや食器拭きをすすんで行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個々に毎日記録し日々の変化に目を配っている。要望に応じては個別にお茶を用意したりと習慣や状態に合わせた支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に合わせたケアを行っている。定期的に義歯の消毒も行っている。口腔ケアの重要性を職員は理解し対応にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日決まった時間にトイレへの声掛け誘導を行い排泄のリズムを作ってもらえる様に努めている。個々の様子観察を行い早めの声掛け、誘導が出来る様に気を配っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のチェック表を作成し排便があった日時や量を把握している。ヨーグルトの提供や水分摂取の促し等便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特別なことのない限りは毎日入浴支援を行い2日に1度は入浴出来る体制となっている。事前に意思の確認、バイタルチェックを行い安全、安楽な入浴になるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は屋外を散歩したり外気浴を行い日光に当たるようにしている。日中の活動を促し安眠に繋げられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の種類、用法、用量を職員は個別に把握している。薬に変更があった場合は様子を主治医に伝え指導を仰いでいる。服用時は複数の職員で確認を行い誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯物畳みやテーブル、食器拭き等毎日の日課として役割を分担し生活に張りを持って頂いている。毎日コーヒーを飲むことを楽しみにしてみえる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力もあり週に1度は外出に出られる方も見える。地域の便宜もありふれあいバスの利用も容易になりドライブに出掛けたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが希望に応じて買い物に出掛けたり欲しいものを購入して頂いている。金銭の利用については必ず御家族に確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けたりおつなぎもしている。本人宛の荷物や手紙はすぐにお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日清掃、消毒を行い清潔で気持ちよく過ごせるようになっている。ホールには最新の行事写真や個々の作品が掲示してあり楽しい雰囲気作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやコタツがありゆっくり自由に過ごせるようになっている。気の合う方同士で楽しい会話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を御持参頂くよう入居前よりお願いをさせて頂いている。御本人様と話し合いを行い安全かつ快適な居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており安全に移動することが可能となっている。トイレや浴室等にも案内版があり分かりやすい居住空間となっている。		